

まちなか震災アーカイブ

東松島市図書館が着手 携帯活用でどこでも

東日本大震災の記録の保存を進める東松島市図書館は本年度、市内の複数のスポットから携帯端末を通じて当時の写真や体験談の閲覧ができる「まちなか震災アーカイブ」を整備する。市民をはじめ市外から訪れた人や震災の語り部などに活用してもらい、災害の記憶の風化を防いでいく。

同図書館は震災の記 憶を後世に残し、次の 世代の防災教育に生か さんと、平成24年6月

から市民の体験談や写真の収集を開始。昨年5月からホームページで公開している。

「まちなかアーカイブ」を整備する。公共施設や飲食店などに、QRコード付きの小物入れやサイン（標識）を設置。携帯端末からQRコードを読み取ること

で、同図書館のホームページにつながる仕組みにする。

小物入れは箸立て、ペン立てとしての使用を見込み、今後、設置に協力してくれる店を呼びかける。また、シール状のサインを用意し、公共や観光、商業施設などに張り出す。店でのちょっとした客の待ち時間をはじめ、語り部や防災教育での活用を想定。将来は地

QRコードを添付した小物入れ。店などに置いてもらい、まちなかを震災伝承の入り口にする

区ごとの記録が閲覧できるようにする。同図書館の加藤孔敬副館長は「本年度いっ

ぱいかけて環境整備する。震災の記録を後世に伝えるため、まちなかアーカイブを活用

のきっかけにしたい」と話す。本年度は民間に業務委託し、震災伝承動画も作成する。



東日本大震災
（震災の記憶を伝える）